

ダリア

朱いダリアが咲いている
団地の谷間の公園に もんしろちようが
ひらひら舞っている

現代詩の長女と言われた詩人は 亡き夫との
さらに深まる交歓を

大切に小箱に書き溜めていた――
鷺の眼を持つあなたはとっくに見抜いていらっしやる
言い訳のためにあなたをもち出したのだということ

そう 愛に「かげ」はないのだから
人は愛をそっと納めておく場所がほしかった
だから 人類はことさら影を造ろうとしてきた

(言い訳するのはやめよう)

朱いダリアが咲いている
俯きかげんに咲いている

花びらは いくえにも折りかさなるようにして
薄ものの光の襞をまとう

ダリアの雫は 炭酸水のようにはじけ散る
花びらに影はない
やがて体の奥からリラいろの波が拓けてくる
あかされる罪のように

いつのまにか ダリアの雫は青みを増している